科目名	39. 「食べる」「トイレに行く」を支える援助				
履修年次	1年次	科目区分	専門分野	単位数 (時間)	1単位 (30時間)
ディプロマポリシー(DP)	□ 人を大切にするこころ ☑ 現象を適切に把握し地域で生活する人を支える看護実践力 □ チームの中で連携・協働するための力 □ 専門職業人として自己研鑽する力				
科目目標	対象の生活行動を支えるために必要な知識と技術を習得することができる				
到達目標	１）さまざまな人の日常生活に関心を向け、食事の意義とメカニズムを踏まえた栄養状態・食欲・摂取能力のアセスメントをもとに、食事を整えるための基本技術を習得することができる ２）さまざまな人の日常生活に関心を向け、排泄の意義とメカニズム、排泄に影響を及ぼす要因を踏まえた排泄能力のアセスメントをもとに、自然排尿・排便を促す基本技術を習得することができる ３）安全・安楽で自立を踏まえた技術を習得するために自己課題に計画的に取り組もうとしている				
評価方法	筆記試験（100点）				
使用 テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 看護形態機能学　生活行動からみるからだ　日本看護協会出版会				
参考文献					
教育方法と学生への期待 (求めること)	自分の生活、他者の生活に関心を持ち、グループワークを通して「食べるとは」「トイレに行くとは」について考えを深め、日常の生活行動（「食べる」「トイレに行く」）の意義を理解し、看護技術の根拠を考えながら、対象を尊重し、対象の生活を整えるための基本的な知識と技術を習得してほしい。 講義・演習では事前学習が必要であり、それをもとにグループで検討することを重視します。また、演習では学生間で患者役・看護師役を交代しながら学習し、「あとは自己学習（練習）すれば技術習得できる」ことを目指し、自己学習（練習）のポイントをつかみましょう。授業（講義・演習）を受けるだけでは習得することはできません。自分のスケジュールを調整して予習・復習および技術の自己練習を行い、自己の技術の完成度（正確さ）を高めるよう取り組んでください。さらに浣腸や摘便の看護技術は、演習の時間内でしか体験できないので、演習用紙やチェックリストで自己評価・他者評価し、自己の技術の完成度を高められるよう取り組んでください。				

回	学習項目	学習内容	授業方法
1	食べる①	人にとって食べるとは 「食べる」メカニズム	講義 演習
2	食べる②	栄養、水分・電解質バランスのアセスメント 食欲、摂食・嚥下能力、摂食行動のアセスメント	講義 演習

3	食べる③	「食べる」を阻害する要因 食事摂取の援助方法	講義 演習
4	食べる④	食事摂取の介助	演習 （実習室）
5	食べる⑤	非経口的栄養摂取 経管栄養法、中心静脈栄養法の基礎知識	講義 演習
6	食べる⑥	患者の「食べる」のアセスメントと「食べる」を支える援助	演習
7	トイレに行く①	人にとってトイレに行く（排泄する）とは 「トイレに行く」メカニズム	講義 演習
8	トイレに行く②	排尿のアセスメント 排便のアセスメント	講義 演習
9	トイレに行く③	「トイレに行く」を阻害する要因 排泄障害	講義 演習
10	トイレに行く④	自然排尿の種類と援助方法 ポータブルトイレ、床上排泄、おむつ	講義 演習
11	トイレに行く⑤	自然排尿が困難な場合の援助の基礎知識 一時導尿、持続的導尿	講義 演習
12	トイレに行く⑥	自然排尿（ポータブルトイレ、床上排泄）の援助	演習 （実習室）
13	トイレに行く⑦	排便を促す援助方法 腹部マッサージ、浣腸、摘便	講義 演習
14	トイレに行く⑧	排便を促す援助（腹部マッサージ、浣腸、摘便）	演習 （実習室）
15	トイレに行く⑨	患者の「トイレに行く」のアセスメントと「トイレに行く」を支える援助	演習